

SSF SPORT POLICY RESEARCH

スポーツ ポリシーリサーチ

VOL.17



CONTENTS

研究レポート1

18歳以上のスポーツライフに関する調査報告書
スポーツライフ・データ2016

- わが国18歳以上の運動・スポーツ
実施率は減少傾向に
- スポーツボランティアの実施率は減少
- 男性の6割が「プロ野球」、
女性の6割が「フィギュアスケート」をテレビで観戦

研究レポート2

新聞、テレビ、サイト、スポーツが題材のマンガなど
多様な「スポーツアクセス行動」が明らかに

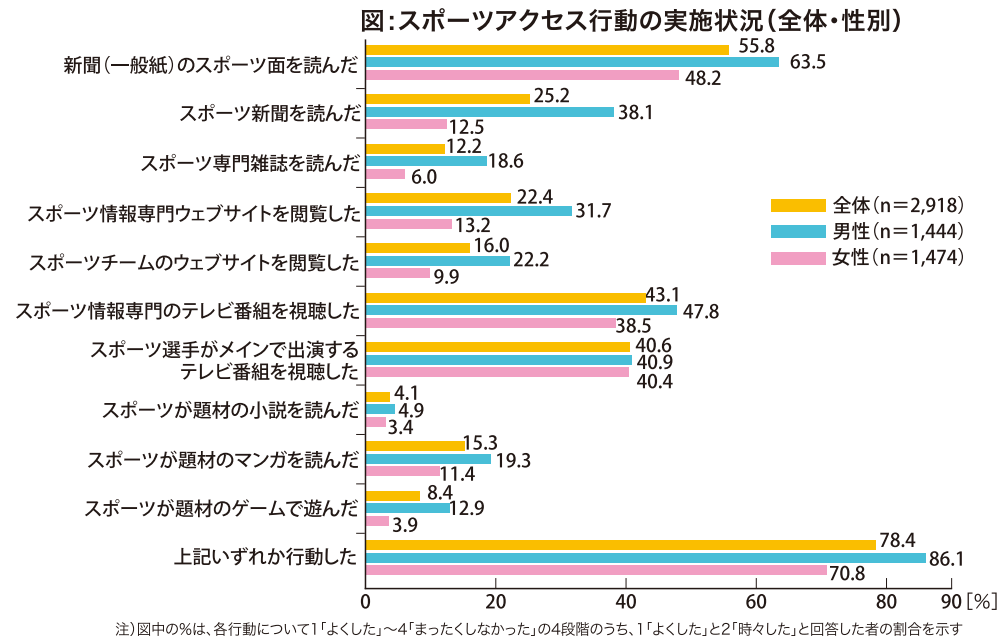
研究レポート2

スポーツライフ・データ2016

新聞、テレビ、サイト、スポーツが題材のマンガなど 多様な「スポーツアクセス行動」が明らかに

全国の18歳以上を対象にし
た『スポーツライフに関する調
査』を取りまとめました。

スポーツ関連情報に触れる手
段は、新聞、テレビ、ウェブサイ
トなど多岐にわたります。これ
ら媒体を通じたスポーツ関連
情報への接触を「スポーツア
クセス行動」として、項目別に
頻度をたずね、性別、年代別
に調査しました。



担当者のコメント

今回の調査では、「する」「みる」「ささえる」以外のスポー
ツへの関わり方として、スポーツアクセス行動の実態を
明らかにした。全体をみると、18 歳以上の男女の約
8 割がスポーツアクセス行動を取っている。性別にみる
と、女性よりも男性の行動率が高いが、女性はテレビ
視聴によるアクセス行動に特徴がある。本調査では、
上記の「全体・性別」に加え、年代別での傾向も調
べており、18～19 歳および 20代の若年層はマンガ・
ゲームといった娯楽へのアクセスが多く、40代以上では

新聞（一般紙）へのアクセスが多いなどの傾向がみら
れた。他に直接スポーツ観戦状況別での傾向につい
ても調査結果をまとめた。（スポーツライフ・データ2016 p.66～70参照）

これらの結果から、これまで主として調査されてきた
「する」「みる」「ささえる」といった行動以外でも、スポー
ツに関わっている者も多く、関わり方が多様化している
様子がうかがえる。スポーツアクセス行動も、スポーツへ
の関わり方のひとつとして、新たなスポーツライフの可能
性を提示しているといえるだろう。

笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 研究員 藤岡成美

TOPICS

住民総参加型のスポーツイベント
チャレンジデー2017
2017年5月31日(水)
**全国128カ所
(63市1区51町13村)で一斉開催**

お問い合わせ先[メール]: cday@ssf.or.jp (チャレンジデー担当)

笹川スポーツ研究助成2016

今年度、優れた「人文・社会科学領域」の
研究37件(一般19件、奨励18件)を支援
しています

○研究のテーマ等はウェブサイトをご覧ください

スポーツ専門ライブラリ 学遊館

スポーツ関連の書籍・雑誌・調査報告書
など約7,000冊を所蔵
ウェブサイトから蔵書の検索もできます

○開館日時／月曜日～金曜日
(土・日・祝は休館) 9:00～17:00

■調査結果、お問い合わせはこちら

ウェブサイト **www.ssf.or.jp**

電話 **03-5545-3303**



研究レポート1

18歳以上のスポーツライフに関する調査報告書 スポーツライフ・データ2016

■ 調査目的

本調査はわが国の運動・スポーツ活動の実態を総合的に把握し、スポーツ・フォー・エブリワンの推進に役立つ基礎資料とすることを目的としている。成人を対象に1992年から隔年で実施してきた本調査を、今回から18歳以上に変更。「実施頻度」「実施時間」「運動強度」の3つの観点から「運動・スポーツ実施レベル」をはじめ、スポーツ観戦率やスポーツボランティア実施率、好きなスポーツ選手などのスポーツライフの現状を明らかにした。



調査内容

運動・スポーツ実施状況、スポーツ施設、スポーツクラブ・同好会・チーム、スポーツ観戦、好きなスポーツ選手、スポーツボランティア、スポーツ活動歴、日常生活習慣・健康 他

調査対象

全国の市区町村に居住する満18歳以上の男女3,000人(男性:1,491人、女性1,509人)
地点数: 市部273、郡部27(計300地点)

調査時期

2016年6月10日～7月10日

SSFスポーツライフ調査委員会

委員長: 海老原 修 横浜国立大学 教育人間科学部 教授
委員: 大勝 志津穂 愛知東邦大学 経営学部 准教授
委員: 澤井 和彦 明治大学 商学部 准教授
委員: 鈴木 宏哉 順天堂大学 スポーツ健康科学部 准教授
委員: 高峰 修 明治大学 政治経済学部 教授
委員: 堤 裕美 上田女子短期大学 幼児教育学科 専任講師
委員: 野井 真吾 日本体育大学 体育学部 教授
委員: 渡邊 一利 笹川スポーツ財団 専務理事

担当者のコメント

わが国の運動・スポーツ実施率は、散歩・ウォーキング・体操といったエクササイズ系の種目にけん引される形で上昇し、年1回以上の実施率は2010年に75.9%、週1回以上および週2回以上の実施率は2012年に59.1%と49.3%を記録し、それぞれピークを迎えた。しかし、今回調査の2016年では年1回以上が72.4%、週1回以上が56.0%、週2回以上が45.1%となり、わが国の運動・スポーツ実施率は減少局面に入ったといえる。これは、エクササイズ系種目の実施率の減少が要因のひとつである。定期的な実施率がピークであった2012年に「散歩・ウォーキング・体操」のいずれかを週1回以上実施した者の割合は、男性34.3%、女性45.1%であったが、2016

年には男性30.6%、女性42.5%と、男女ともに減少した。一方、2012年に「散歩・ウォーキング・体操」以外の種目を週1回以上実施した者の割合は、男性17.7%、女性10.2%であったが、2016年には男性19.7%、女性9.0%と、女性はわずかに減少したものの、全体では増加した。また、近年のマラソンブームに呼応して実施率が上昇してきたジョギング・ランニングも2012年をピークに減少が始まっており、開催を控える大規模スポーツイベントなどを契機とした運動・スポーツ実施率の上昇に向けた施策が望まれる。



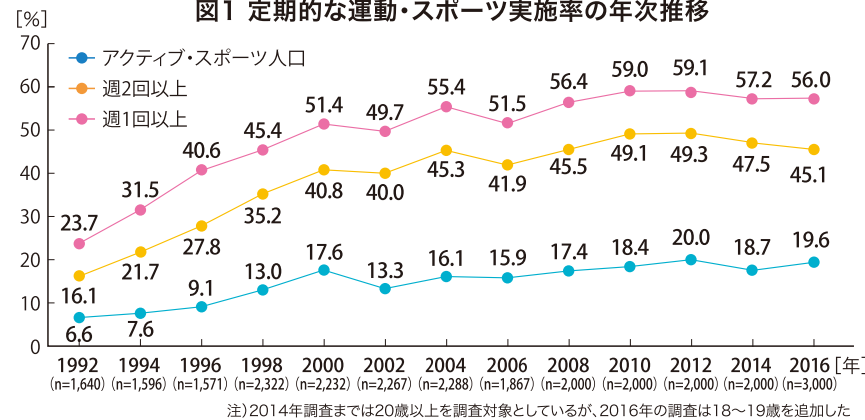
笹川スポーツ財団
スポーツ政策研究所
研究員
藤原直幸

調査結果

1 わが国18歳以上の運動・スポーツ 実施率は減少傾向に

過去1年間の運動・スポーツ実施率は、調査を開始した1992年から増加を続け、2012年には週1回以上(59.1%)、週2回以上(49.3%)ともに過去最高の値を記録した。前回(2014年)調査ではそれぞれ57.2%、47.5%と減少に転じ、今回もそれぞれ56.0%、45.1%と減少傾向が続いた。運動・スポーツ実施率は減少局面を迎えたといえる。

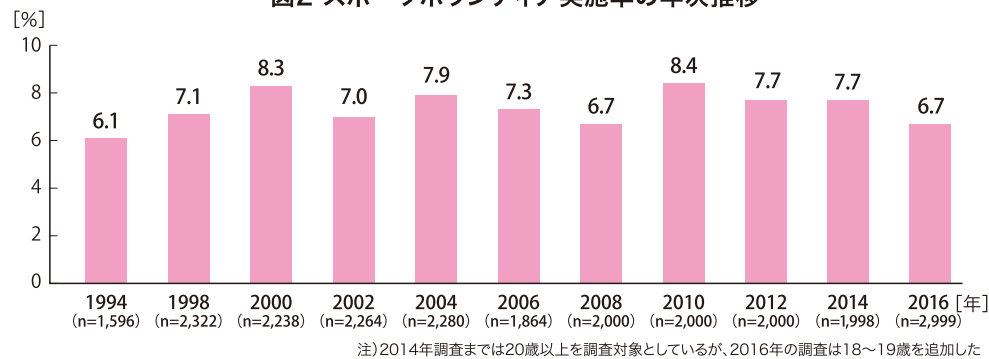
図1 定期的な運動・スポーツ実施率の年次推移



2 スポーツボランティアの 実施率は減少

過去1年間にスポーツボランティアを行ったことが「ある」と回答した者は全体の6.7%で、2014年調査から1.0ポイント下がった。2010年に8.4%と最高値となってから減少傾向にある。

図2 スポーツボランティア実施率の年次推移



3 男性の6割が「プロ野球」、 女性の6割が「フィギュアスケート」をテレビで観戦

過去1年間にテレビで観戦したスポーツ種目は、「プロ野球(NPB)」が53.8%で1位、「高校野球」が48.4%で2位、「フィギュアスケート」が46.2%で3位となった。性別にみると、男性は「プロ野球(NPB)」64.9%、女性は「フィギュアスケート」59.1%が最も高い。また、ほとんどの種目

で女性より男性の方が高い観戦率を示したが、「フィギュアスケート」(男性33.2%、女性59.1%)「バレーボール日本女子代表試合」(男性38.4%、女性47.1%)「バレーボール日本代表試合」(男性30.9%、女性39.4%)は女性の値が顕著に高かった。

図3 テレビによる種目別スポーツ観戦率(全体・性別:複数回答)

順位	全体 (n=3,000)		男性 (n=1,491)		女性 (n=1,509)	
	観戦種目	観戦率 (%)	観戦種目	観戦率 (%)	観戦種目	観戦率 (%)
1	プロ野球 (NPB)	53.8	プロ野球 (NPB)	64.9	フィギュアスケート	59.1
2	高校野球	48.4	高校野球	53.5	バレーボール日本女子代表試合 (火の鳥NIPPON)	47.1
3	フィギュアスケート	46.2	サッカー日本代表試合 (五輪代表含む)	51.0	マラソン・駅伝	43.7
4	サッカー日本代表試合 (五輪代表含む)	45.3	大相撲	42.9	高校野球	43.3
5	マラソン・駅伝	43.2	マラソン・駅伝	42.6	プロ野球 (NPB)	42.9
6	バレーボール日本女子代表試合 (火の鳥NIPPON)	42.7	バレーボール日本女子代表試合 (火の鳥NIPPON)	38.4	サッカー日本代表試合 (五輪代表含む)	39.6
7	大相撲	38.0	プロテニス	37.2	バレーボール日本代表試合 (龍神NIPPON)	39.4
8	プロテニス	36.5	サッカー日本女子代表試合 (なでしこジャパン)	33.3	プロテニス	35.9
9	バレーボール日本代表試合 (龍神NIPPON)	35.2	フィギュアスケート	33.2	大相撲	33.1
10	サッカー日本女子代表試合 (なでしこジャパン)	30.9	Jリーグ (J1、J2、J3)	31.7	サッカー日本女子代表試合 (なでしこジャパン)	28.5
			プロゴルフ	31.7		

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016